

1 書らつばつこでいるませの神多なにご兄
コいれてれてとす者たたる無はかく見と弟
リてた神、あが。やめ、た学知つ、てをた
ンあののこななそ見、神めな恵た能知、ち
トるで知のたいれ下世は、者あわ力恵思、
トとす恵キがよはげの地世をるけののいあ
・お。とりたう、ら無位の選者でああ起な
り、なスはにだれにの無びにもるるこた
に誇りトキすれて等あ力、恥あ者者しが
なる、はりる一いしるな力をりやがてた
る者義、スタ人るい者者あかま、多みが
たはとわとめ、者者ををるかせ家かな召
め主聖た、で神を、無選者せん柄つささ
でをとしイすの選身力ばにる。のたいれ
す誇贖たエ。前ば分なれ恥たとよわ。た
。れいちス神でれの者まをめこいけ人と
へ、とににに誇た卑としか、ろ者で聞き
第となと結よるのしすた。か世ががは的の

まえおき

まはと を記な
し今いき大念お此
たでうよへキ招の
。は題うんりき度
そもを私光スには
れう掲は栄教よ那
で耳げ、に講つ覇
も慣ま内存演て聖
私れし村じ会、書
ななた鑑ま、こ研
どい。三すでの究
は言へに。お伝会
履葉平お話統の
歴に民けがあ友
書な、るでる人
のつと平き、方
よてい民ま内の
うしうのす村ご
なま言思こ鑑親
もい葉想と三切

すにしと福民い いは見意法いわ 庶苑第称の族れ族、ての
。持述を音、るそよ信て味すうけ内民、に制一、て称明おに
つべ、とのかこう仰みをな語で村、を使度九士のの治り、
意てな信イ、でにのまもわをは鑑と見わが四族た一二ま何
味、る仰メ彼、思本すたち用あ三説まれ廢七の階つ、す々
をさべに、が内お質とせ、いりの明すな止年下層で年。県
もいくどジこ村れを、てどてま著さとくさ、にの、に、平
少ご彼うはのがまよこ使んおせ書れ、なれ日立士そ明平民
しに自関ど語こすくのつなりんをて、つ、本つをれ治民、
くそ身わのにの。表言て文まが読み官た、国も除ま政、と書
考れのるよよ語 わ葉い脈す、みま位の平憲のくで府と書
えが文かうつを しはるで。彼ますので民法で農、にはか
てこ章、なてど て内か、しがす。なあ、にあ工士よもれ
みんにとも描の い村、こかこと いりと基り商農つとて
たに当いのきよ るのとのもの、 普まいづまの工てもい
いちりうか出う と思い語、、決 通すういし総商設とた
とのなよ、すに 言想うにそ平し の。言てた称、一定一の
存私がうそ、使 つあこどの民て 人、葉こ。でとさ八を
じどらなれ平つ てるとん使、多 民広もの戦、呼れ六覚
まも申こは て よいをな用とい、 辞次族後華ばた九え

内村の平民への関心

ま短がま
す文あす教
。そりと文
そのま、館
の他しそ版
う全ての、
ち部、第内
三でそ二村
篇四こ三鑑
は篇に卷三
いが、に信
ず分平、仰
れ類民平著
も、の民作
一収定、全
九録義と集
○き、い、
○れとうに
へてい項よ
明いう目り

て天何ま 考
 政然とず名えそ
 治詩言内前てれ
 家人つ村をいで
 のワてが羅たは
 ミーも最列の内
 ルズ 〽もすで村
 トワ平尊るあは
 ス民敬だりど
 13. 11 詩しけまの
 、 、人たのしよ
 バダ 〽詩こよう
 ンホ人とうな
 ンテイかにか人
 ズ 12. ッらな 。を
 14. 、ト挙り へ
 。詩マげま 平
 文人ンます 民
 学に 10 すが 〽
 者し 、と、 と

内村のへ平民と誰か

でエそて階いあ平 〽死しりの
 あスの、級のる民偉の、ま初もた
 る・年大ので。で人前へす期ち。心〽で、ざさたりい
 〽キのな者あ平あイ年平が一ろ
 9. リ十るとる民つエー民、九ん
 とス二小な。、てス九〽そ〇、
 記ト月人っ人平、〽二をの〇そ
 しの二とては信平と九語後年の
 てし五な、平徒民いへつも代語
 おも日るみ民、はう昭て折前の
 りべののずの平イー和お々半使
 まで日でか階のエ文四りにに用
 すあ記あら級字スで〽まへ多は
 。るにる偉をがのは年す平い 〽
 。は 〽大脱付ご 〽十。民の研
 ゆ 〽 8. 性しくとイーそ〽は究
 え自とをて者きエ月しに事 〽
 に分言放、がもス発て言実誌
 平はい棄特えのは表そ及で刊
 民イ、し殊らで大のの あ行

しの創道か懐激しらの
 た関刊誌らせしたキ強
 〽心〽で、ざさたりい
 はのあそるゆめスも
 一時るれをえにトの
 貫代 〽とえに、教で
 しに聖はな自そ信あ
 てな書おからの仰り
 変つ之よつ 〽社にま
 わて研そた余会立し
 るも究対 〽は的つた
 こ、 〽照東狂愚正てが
 と内 〽的京義の、
 は村一な独での平一
 あ九純立あ唱民方
 りへ〇粹雑っ道論そ
 ま平〇な誌たのでの
 せ民年福 〽 〽余あ頭
 ン 〽九音時とりり初
 でへ月伝代述のまか

言・教ンツ

り腐彼
 改敗にル
 めせあし
 たるりテ
 の教てル
 で会ドは
 あり倒ツ
 ましのの
 す、平平
 。そ民民
 改のはで
 革社起あ
 と会ちり
 はをてま
 何根、し
 の底そた
 のの。

葉ブ家 26. ド次
 をレで、スに
 引ナはワト政
 いールシン治
 てド 〽 25. 家
 お 31. テト、で
 き。ルン 〽は
 まと 29. 27 平ま
 すく、民ず
 。にカ、政ク
 ルルジ治ロ
 ンフ 〽ウ
 ル 30. アのエ
 に、ソフル 24.
 つダンラ 24.
 いビ 28. ン、
 てッ。クグ
 のド宗リラ

るたの多日義 義 福のるてして
 。。ご数本のの 〽最こ、か、べ
 ベとのはお 〽と大とキしいン
 ンき幸べこ 〽い幸のりなかタ
 タ享福ンな 〽う福でスがにム
 ム楽をタわ 〽と 〽きトラ見の
 の主学ムる おこなわ
 学義ばよる 〽じいも国格も学
 びのなり所 〽うののは高は
 損国か幸た 〽あはで英高貴最
 へ民っ福ら 〽つ、あ国貴な大
 そにたをざる 〽て 〽るになる幸
 こな。学る所 〽下。おるも福
 なっゆんをは 〽べ流 〽いもの主
 〽てえで得平。 〽社最ての義
 いしに、な 〽民。 〽タ会大のでは
 でま今最い 〽主。 〽ムの多みあなあ
 あっ日大。 〽主 〽幸数見つ。

てるトが 18. 17. で
 は 〽 20. エ、。は
 こル、ンミ画カ
 うソソジレ家 〽
 言 〽クヨ 〽でラ
 っ 22. ライ 19. はイ
 て、テし。 〽ル
 いベスう哲平 15
 まン 21. る学民、
 すタ、 〽者美ラ
 。ム 〽もで術ス
 23. 平のは家キ
 。民で 〽 〽ン
 べのあその 16
 ン権るのレ、
 タ利と哲ント
 ム主い学ブル
 に義うはラス
 つ者カ平ント
 いな 〽民トイ

日い最折一か挙 わ民しいでべ しキツの
 本しもの平にげ残か性て容あてこてユドあこ
 人政・真・紀民ソて念るゝいれれ平れ称ヴソつの
 の府・正・行の口日なとをるなば民を揚インきほ
 中一な文味ン本が存人よい彼、見しエと友か
 で³⁵るの方、人らじ間う人はあまでしい人に
 彼だ意中ールを、まのに間例るすいをうで内
 がと味でとイ殆内す資思もえいとま一人あ村
 平・申に鎌言十ど村。質わ、ばは、す平とつは
 民・しお倉い一挙は とれそル平内³³民³²た、
 とてい幕³⁴世げこ しまのソ民村。的、一
 呼いて府、とてこ てす平一的の 良フと自
 んる平・をま並おに 尊。民の人尊 心ラい身
 だに民、一たべり外 重彼性よ物敬 をンうが
 唯過主・日鎌てま国 しがのうです もスト平
 一ぎ義・本倉仁せ人 ていゆにある つのマ民
 のまをにを徳んば いかえ自り人 学博スで
 例せおお訪帝。か たにに分、物 究物・、
 外んこいねをわり か、尊と平は 一学デ平
 は。なてた ずを が平敬あ民す と者ビ民

あだれ教のま民一のんその改
 り平て会ですのマ常。う常革
 ま民あをは。宗教識政し識で
 すをつ離ある教会で治てはも
 。代たれり一対であ家貴常、
 表のてまテ教ありのきに常
 しで、セル会つま改はそに
 てあ当んはのたす。革学の平
 教り時。新宗の での者平民
 会まの彼た教で、はの民の
 にす平のには、あ学に業
 当。民唱信ああ、り問おで
 たルのえ仰つりルまでいあ
 っ一間しをたましせはてり
 たテに信発のせテんああま
 まルい仰見でんル。りりす
 ではだはしあ。対平ま。す。国
 でたか、たり平口民せ。

がな いだぶ
 イく内るそべ内
 エイ村ののき村
 スエにでよ人の
 をスとはう物目
 平・つなながか
 民キてい資いら
 とり平で質な見
 呼ス民しがいて
 んト中よ十の、
 だそのう分は日
 始の平かで、本
 め人民。な恐人
 はでは いらの
 、あ、こく
 一り申と日に
 八ますを本平
 九すま示人民
 九。でしにと
 年彼もてま呼

ブ紳で Noblemen's Hat nobleness does.
 ル士ありすなわらず。貴、自族で民に求りあむらるせんと。³⁶たきノ人は
 田君は、ト無ル私、ン。寡欲のり人平民的ありで。神
 に民しし輝をの幸くてまののし し
 感をたてきも価福だのせ内では。田。田
 じ代。やまつ値でさ貴んで、な君君
 表君ましてであつ族。な君君
 自ざた輝立るたが私君いは
 身る。かたでな君はほかア第一
 貴が平まざれあらのごに貴思スに
 族大民こしまるばごに思族いとデ
 列民貴に、たとわくいらま教モ
 にで族君爵。れにましす育ク
 加あでは位ゆ神ら平しく。がラ
 えりあ英はえ田平民たな私しッ
 らまり国君に君民的、いのかト
 れしま民を君ははでも人知らで
 して、が通は御いあしはるしあ
 よ、敬し爵自かつすあ貴めり
 う平 愛て位分にてべり族たま

よま神
 うす田
 に。乃
 評そ武
 しのと
 て吊い
 お辞う
 りの彼
 中敬
 内愛
 村し
 はて
 神い
 田た
 乃友
 武人
 をで
 次あ
 のり

いれを紹なづ⁴².局いにと
ーら草介いけ。ー⁴¹.よ共そ
と何ししーばあ平、らにし
告びてた⁴³.近る民まな世て
白と、よとづ日のたけに内
しもーう記くの用イれ来村
た平大にしほ日をエばたは
の民平ー、ど記なス人も、
でた民偉そ、にすにはの真
あらイ人の真ーよ平での
りぎエイ死個何につ民あへ
まらスエののび至てにり平
しんをス近平とるすな⁴⁰民
たと主ーづ民もとべる、主
。欲と¹⁷.いたイ論てこ依義
す戴とたらエじのとつ、
るいい時ぎスてもはては
もてう、る様いのでイイ
得、一先をにまはきエエ
なわ文に得近す結なスス

彼税常然民て子
は吏識をとほな
、とに愛し、る
実罪富してリナ
に人み、はンザ余
余と、嬰はコレの
のの帝児るルの敬³⁸
理招王をかンイ慕
想待の愛にもエす
のに宮し劣グスる
平あ殿、るラでキ
民ず学。ッあり
でか招校労ドるス
あるかに働ス。ト
るをれ学をト彼は
。喜んば愛ンに、
³⁹.ばよずしもく大
れりし、、ら工
しはて天平べの

平尊子るとあり
民をと者しはゆ
でこし、てと、え
あとてこ仰言むに
あとのれぐうし、
。と貴み者べろイ
拒を平彼で民ス
否認民にあとは
すむで罪るは平
るるあを。イ民
、か。がベスあ
こ、すなてのる
れそなわイごと
がのわれエと言
真他ちんスキわ
正の神とを者ん
の貴のす主でよ

とイれエ七
しエます月
てスす・の
紹を。キ
介宣そり東
しべれス京
てる以ト独
お時後ー立
り、、³⁷.雑
ま内ーと誌
す村九い
。は○うに
必○短載
ず年文つ
イ代でた
エ前あー
ス半るわ
をにとが
平彼思師
民がわイ

はキ聖
政りきそ
治ス、う
家トうし
を教るて
作にわ文
りまし明
仏さき国
教る家二
はの庭千
哲勢を年
学力作間
者はるの
をなを経
作いあ験
る。たと
か儒つし
も教て、

にと
つ言
いい
て、
はキ
、リ
スト
教
が
家
庭
の
宗
教
で
あ
る
こ
と

言かそりる
うらうス国
まはしト家
で、て教主
もそキを義
なれリ喜者
いがスばが、
。学トな、
⁴⁴.者教い特
のののに性
宗下は家に
教地も庭供
でがちのす
な労る宗べ
い働ん教し
こでである
とあある唱
はるる。キ

民
の貴
族は
そ
の
貴
族
根
性
を
捨
て
ず
し
て
、
平
和
軍
人
は
そ
の
性
格
を
捨
て
ず
し
て
、
平
和
軍
人
は
そ
の
性
格
を
捨
て
ず
し
て

の平平祭は張村
宗和民司ないは
教のののくたキ
で宗宗宗ししリ
あ教教教てまス
るででで平すト
ーああは民。教
44.りるなのーは
。、ゆく宗キー
そ家えし教リ平
れ庭にてでス民
ゆの、平あトの
え宗キ信り教宗
、教り徒、は教
でスの僧貴ー
あり教教、のあ
、はで神宗るに
労まあ主と、
働たる。で主内

か平で人
を民な物以
見性くを上
て、尊見
みをい敬
た見ろし
としろい
思てなま
いおもし
まりのた、
。しい、村
たろ彼は
。いは平
そろ人民
のな間性
い所ばの
くにかあ
つへりる

言足か、と福てて民かのと
つるし、呼お存とりに言
て福な余びり在しま、う
い音がは、ませてす平の
まはら神、音すん、。民で
す、平学平。こキそのす
。こ民者民内とりし宗。
それのにの村をステ教内
しを友呈福は欲ト彼、村
て唱とす音福す信はをが
、えしるは音る者、大ど
平ざて福平を者と余切ん
民る、音民もでしはにな
のを平をに、あて国しに
福え民持受平るは民て具
音なをたけ民、平とい体
、い助ならの⁴⁷信した的
が、くいる福と者てか、
宣⁴⁹る、音言とはが実
べとにし⁴⁸、っし平わ際

だし平こ別り
。ま民ろのもピ
⁴⁶。うのに教直ユ
。宗あ会さ、
気教つ、ずリ
をはた特、タ
つすの別おン
けぐだののの
なに。僧おす
け僧皆侶のぐ
れ侶のをのれ
ばの心必家て
い宗掛要がい
け教けと教た
なと次し会点
いな第なでは
こっでい、、
とて、と特と

ん用が同 と
でい言氏こ申
はたうがれし
ないに筆はて
らとは記内お
な申、し村り
いし自てがま
よ込分伝嫁す
。まのえの。
なれ家て美
ぜたをい代
か時宗る子
と、教もに
い決上の語
うしのでっ
とて会すた
、そ合がも
れな、の
をど内を
拒に村、

る良他のを富知
まののは作むら
いみ事なる妻な
とにはいもとい
思はで。の、が
うキき日に従、
。リる本し順し
⁴⁵。スカ人てなか
トもはキるし
教知、リ子温
にらキスと良
よぬリト勤な
らがス教勉る
な、トにな夫
く家教まると
て庭なさし常
はのしるも識
な改にもべに

日し民ちと
こののの言
れ聖日評書聖い
に書記価、書、
よのにしとの聖
っ新記てし歴書
、きてま再的高
ま研いす発批等
す究る⁵²。見判批
まをこ。す的評
す怠とそる研、
明っでしこ究す
白てすてとをな
にはが、に、わ
なな、こ貢聖ち
られ献書、
こなはしをこ
といあた、ん
は。ると平に

⁵¹。とす天わこま
しる然れれず聖
てこにらをこ書
こと接、平れは
れなす神民を神
をくるのに僧が
読、が子伝侶直
み恐ごたえに接
、るとるし授に
そるき者めけ人
のこ自はたた類
光と由、まに賜
になをこいい賜
浴くもれしてい
す、つに書彼し
べ、て接にら書
きわしすあをな
なが、るらしり
り。書臆にず。

と内の聖
し村基
ては礎
、は書
聖当
書然
はの平
神こ民
のとの福
書な音
にが、
しら、
て聖平
平民の
のあキ
書りリ
なます
りすト
。教

なそなのい調た純
いしい一ずしは然も
。て。大れた芸たし
⁵⁰。坊 Rev. 主 特も。術るわ
のはで然れ音民ら
宗日あたなら樂教の
教本るるの者会集
ほ語。平間はで会
どでこ信に一あが
、はん徒職人っ教
い、なで業もて会
や坊うあ的居、で
ら主れる神な有あ
し、しこ学い給る
きといと土この給る
も訳こはなと教ら
のすと柏くを師ば
はる。は木、高ま、

り伝
まえ
すら
。れ
る
集
会
を
、
平
民
の
教
会
「
と
呼
ん
で
お

なみた憲ん い地(女もル
 い一も法平 る球し王の・英
 °のの発民 のともばでパ国
 54.よだ布的神で称じかあラ女
 うかと植はあすもりる一王
 なら共物わるる)で°スの
 平、にをれ°このは(宮
 民一、日造わ の土な(と殿
 草や本られ 立百い水名の
 をぶ国れ平 派姓°晶づ一
 研かのた民 なまわ宮けは
 究ら自°の るでれにて水
 しし由、た 水がわ住、晶
 な一の め 晶、れむ世宮
 けや平わに 宮こ平者界(へ
 れ一民れ、 にと民はにク
 ばどとわた 住ご、英有リ
 なく成れく んと下国名ス
 らだっはさ でく、

す立1と(然らん微啓神自いと
 °雑8い平こ天チ鏡示は ま言
 誌9う民そ然ス下さ歴 すつ
 『9語(本詩トにれ史然°て
 に(のと来人でヒると、
 載明使天的で、ユと聖 聖
 つ治用然にあ天マ信書内 書
 た三のを(り然ニじと村 の
 も二最結平ま詩テてとは (へ
 の)もぶ民し人イいもも 平
 で年初文(たワをまにと 民
 す七期章な°一見し天も 的
 °、にはのそズよた然と (へ
 一八属、でのワう°を自 研
 部月す彼あ彼スと彼通然 究
 をののりのをしはし科 を
 引(も(ま目愛たまた学 勸
 用東の平しにす(た自者 奨
 し京で民たはるロ(らで し
 ま独、(°天自マ頭を、 て

らの還る聖
 ぬましこ書
 °じてとが
 53.め、で教
 なこあ会
 るれるの
 聖を°書
 書平(にあ
 学民(あ
 者の聖ら
 の手書ず
 努にをし
 力渡教て
 です会平
 あがの民
 ら、手の
 ねすよ書
 ばべりで
 なた奪あ

自自と パに天音い ばが然は特を天し然べ
 由由°やキウよ然楽う天自るはなに賛然くはて天
 をを天(リロりにでは然由°直い聖美は、その然
 教重然コスとて対あ、は独ゆち°殿す別まの儀学
 えんはリト共キ照る整一立えに天とるにたま礼を
 るず自ンはにりは°体体なに神然称°礼敬まにも
 °る由トあ叫スあまのでら天にはす天服虔に堪っ
 ま一と前まばトるた意あざ然造純べ然を(しうて
 こ致同書たざ教がはでるる的ら粹きに着つてる養
 とと時一にるを、大あ°をにれな、僧ずつうこわ
 に、に・分を究矛なる宇得神てる神侶ししるとれ
 天一一(か得め盾る°宙なを、平をのてみわはし
 然致致(るえては絵天をい拝直民礼階、)しで余
 ののを るな、な画然コ°せちで拝級そ深くきは
 研中教 者いわいではズ んにあすはのく、な、
 究にえ な°れ°あ大モ と神るるな造あまい世
 ほある らら天るなス 欲に°場いりるた°の
 どの° んは然°ると せす天所°主°正天す

つつとは興殺わ鳩(てる
 てい、純ずすれにわ大一内
 いてそ粹るよらもれい 55.村
 ま、れな貴うはしらにとは
 す実がる族ないぎ両平言春
 °に私平をこかに腕民いに
 深ど民皮となものを、な
 いもで肉はる深ほ益秋れ
 洞にあつす場きかしがば
 察示るてま合同にた来、
 をす(いいに情たもれそ
 ももとま(おをようばれ
 っのしす(いもるた(は
 てがて°とてつ途(天(一
 次何、そ、も者な 56.は平
 ので天し狩彼できと豊民
 よあ然てりらあ平喜年の
 うるの(よをる民びを春
 にか本天う打かは、賜で
 語に質然にちら、うあ

言てわこむら
 ルう、ちれにぎ
 のな人吾をしる
 定り類人割ても
 義。た各、の
 よ英る個さこな
 り民のの、れり
 来族特自くを。
 たの権由のこす
 り自のの利ぼな
 し由付存刀つわ
 も観着すあのち
 の念するる力心
 なはるとなあ靈
 り彼とこしる界
 。らころ。なの
 彼のろにすくア
 らソをしな、ト

individual(=individable)

しあ魂(魂ら
 てらにパとわ
 、ずアル訳す
 こ、らソしのさ
 れ神ずナて語れ
 をに、リ、のど
 他あ魄テそ吾も
 のら、イの人ソ
 英ずは、内にし
 語、くをにアル
 ソ、發明るそ
 に見らなの
 あすかしも
 はらるな。の
 ずあるこを
 個れ言
 ル精わ人をい
 格靈あ

付し酒ん、てそ敬すしが、りと英
 しこて精と英もの礼にて、外でと
 たのいをす語、内的はその国あも
 説本ま受るを平に、英の語りに語
 明のすけが学民平階英語第のま近
 を中。ごごん的民級語、三研し代内
 、でらとで言的的是を章究た日村
 ご内んきそ語言言、論に。本は
 紹村とはの、語語そじお⁵⁹。そにま
 介がす、平でのののていとのおた
 し、るぶ民あ多は綴いてい内け新
 た、とどの的るきな字ま彼う村る渡
 い、同う思ここは法すは小の三戸
 と、一酒想ととだが。、冊隱大稲
 思と、なをにが、少不内平子れ英造
 いい、り飲感分をな規村民がた文、
 まう、ん染かもき則が的、あ名家岡
 す単とでせるつこな言言、り著の倉
 。語結そざとてとこい語、まにひ天
 に論のらし、見と、と、まとす、と心

人の寛容の性を養うものはない。⁵⁸

一がた、ま、人きに井でこと者う、全と政あ私
 一⁶²。時まし余に彼就時あれ批ゆな内体ど、るに
 朝、、たは反は官雄りは判え人村のの、よは
 報彼内、。平対こすとまいし、間が中よ治うこ
 一は村そ⁶¹。民いのる徳すずたはは井でう、にれ
 がそはの、主たこと富がれこな、上考な最思は
 平のそ翌、義しとい蘇、もとは多哲え関後わ、
 民これ年、をまをう峰内一はだく次て係にれ平
 主とを、一選し惜こと村九既平政郎みに、ま民
 義を祝万、んたしとがの〇に民府とたあそす、
 に祝う朝、で。みが相敬一申的ののいるれ。の
 立う演報、一そ、あ次愛、し思庇論とかで、最
 っべ説、一のこりいす明ま想蔭争存をは、良
 てきをが、い反れまです治しにをのじ、、の
 い理し三、う対にし明二三た乏得中ま内平、定
 る由て千、この失た治人四。してです村民、義
 ことお号、と理望。藩の年そき生、。の、の
 としりに、で由しそ閥友のしな長彼、生は、一
 、てま達、あは、の政人こてりせの、き政、つ
 政、すし、り、二と府横と、、しよ、方治、で

をのりはのこ帝わ久しと国の
 与特。、有れ王が不ル称に称
 え権ソそすソに心滅主へおす
 よをし、のるしも中の義といる
 。与ル内ソル宿のものをなて個
⁶⁰。え、にしなり一の言、伝人
 よソソルりて物、ううえ主
 。しに。ま、他なるら義
 しルルあ人たす人りもるな
 か、なりの乞なの。のるる
 らわる。人食わ干、にがも
 ざれ靈人たにち涉、あごの
 れに物命るも自し、らとは
 ばわののの宿我あ人ずき、
 わが宿貴真るそた一し利現
 れソれ重価ものわ人て己今
 にしばなはのもぎ、、主わ
 死ルなる彼、の、る永ソ義が

千に言うて、そのやめよ、日本人の貴族はその平民は四千万なりと

にカで一意力おつたス教 次しあ方をりてめ卜的政 のラるで信でま一な教政治 よイかそぜあす大りの治そ いうの警民とかま善卑治平も 言「告意勸らた事人は民の 葉クすのめ、業のす的に がロるいて立民とたべ政つ あンこかい憲意見めて治い りウとにる国はなな民でて まエも頼のの国すりのあは すル忘るで政政な。たる、 。伝れにあ治にり聖めと内 』て足り家お「書なし村 のいりまはけ⁶³。はりては 解まなすつと政。、キ 説せいがね最言治貧「リ のんも⁶⁴。に大つを者キス 中。の、民威てものリト

うるのまてい、非・第一し官いこそまつ賂府 一、はしそわ非体一不てをかののすたをま と、てうゆ体制高敬終得に愛もとこ取た に彼も呼る制派等事始るもすの、とらは 誇が、び「派と中件しこ内ベをこ「な政 り平内た反「し学「たと村く示れなか党 を民村い体とて校「のならしすらどつの 感でがと制い生を一でくしてもはをた機 じあ生思派うき追八あ、いかのい挙こ関 てる涯う「のぬわ九り一言つでずげとと いこ体のははいれ一ま貫い憎あれて、な たと制では私たた「ししよむりもお愛ら かを派すなののの明たてうべま内り想な ら好にがい用でち治。在できす村まをか でみな。と語あは二彼野あ明。自すふつ あ、らい思でり、四はのり治彼身。りた り平なずう、ま徹「い民ま政はの考まこ ま民かれの内し底(年)わ間す府遂生えかと しでつにで村た。ゆ人が「にきてな、 よあたし敢は たでるとに⁶¹。「方みか賄

くび年

はあくては、その平民の所有ではないから、国の理想は、貴族の所有ではない。国は実はその平民の所有で、天子の徳を賛(た)えるための歌である。天子の徳を賛(た)は国歌ではない。これは国歌とは、その平民の心を歌うたものである。天子の徳を賛(た)は国歌ではない。これは国歌とは、その平民の心を歌うたものである。天子の徳を賛(た)は国歌ではない。これは国歌とは、その平民の心を歌うたものである。

だのに次 こ植さ と守口を乗とらにるつく 主少あて民 ださ所書に のせえ しりん満じしはまにい見平義しれ生四 さいでか引 世ん、 てたウ足、て彼じはまにえ民なくばま千 ありたし きた少上彼りエせそ天がめりクてはる史貴れ万 ます歌す。にの たらはな族憶え厳と誉臨く平、ウ明をにもるり最 ざ、るをのにとを心み殿民彼エ白迫欺とをし大 少つは、 べク平く外彼し求を、様なクルをるすかき辞者多 べロ民じにらてめ満少然り口をるす、べ者ざしは かん勢、りつのりしくとがウ悪実こきはるて貴 ざエ力下去い平。、国のゆエ「なれに、者、族 65。は地衆ん大的れののまなが「語ららりら性 幾上愚と偽態ど利弱ぜりあお英の「平吾機も 回にをせ善度も欲点ん。ま「国ご。平吾機も か扶おり。者をク心に「彼りすがと 民人會つ

のな高働らかと ああら は河平にる平ぼ健果なといそでつ う今自民
 乞ら尚をんな言な撃揚執る働な平なと民打。民たでをどの。れあて平。日尊の
 いずに高ぞついさたげら人をい民ら、歌たかのんな貴を意さだるは民。最自心
 に、し貴くたしんんんが助。歌なまなれし美のくぶ形でれけかな的。も重を
 応詩てな、もご、、、、歌け歌でいたるてででよて平容はど彼ららな。要の慰
 じ人優ら貴のと万こここつ促はあ。蒼ももあはうは民すなもの、なれ。求精め
 てホ美し族でき事のののてす娛る。空の倒るななのるい、歌彼いば。す神、
 イなむ輩あはを槌斧筆、も樂か。とはれ。い美ら理言。高はの。と。るをそ
 ヅらるにる、、、、、ののら。を、なく。はな想辞優尚高理平て。と供の
 テずもいとよ神道人国。でた労。歌大いす平、いでで美な潔想民、。こす望
 イ、のや思くのののの。なめ働。つ岳美の民貴。はあとるでがはも。ろるみ
 ア通がしう平たたたた。くで歌。たとできの族やなつはとな高国ち。の歌を
 ！俗平と。民めめめめ。てはで。も、あで美のないて、はく尚のろ。もが高
 がに民思世歌にににに。はなな。の。大るあは美ぎ。、貴、てな天ん。の、う
 あし歌わのの。なくく。で洋。る、での平こ族優はる然野。で日し
 るてでる。懶主。らして。なとゆ。松あよ民れの美なだ的卑。あ本、
 下野ある族意。なては。なく、え暴でつうはは令ならけ貴で。る国こ
 稗卑る労（に。い。な。て大に風あてな、強実嬢るな、族あ。と民れ

67. 自的が尊た对付あに平ば役
 分キるさめ党かると民幅人日
 のリよをでがん。り主が国本
 馬スう知あ倒とゆ政義利で国
 鹿トならる閣すえ府だかあは
 さ教小な。運るにほのなる今
 加を児い日動。何どとい。な
 減与で。本に政び安唱。こお
 をえあ爵人熱党と心う日の依
 あんる位は心がもでる本国然
 わと。をいな政官有け人でと
 れしこもまる権吏利れははし
 まてんろだもをのなど口官て
 ぎ生なう純、離地所もで吏官
 る涯国て平みれ位は、はに尊
 をを民、民な得にな実独成民
 得送にうたこずかいは立ら卑
 なり独れるれ、じの彼だぎの
 い。し立しのが反りでらのれお

しそ一 に的はの歌にい日
 た平九そ驚でな歌で、うの最 とと世
 の民二し嘆、らでは、こ丸近 思書界お
 での九てせ先なはな日との政 うきのん
 しで年内ざ見いない本を掲府 。し一身
 たな四村る性、く。に決揚は 66. が部が
 。い月はをとと、国はめと学 ごを手
 こ五、得洞い平歌また君校 と清に
 と日そま察う民とだよがの きく執
 を、のせ力内のは国う代入 はせる
 嘆日死んに村心天歌での学 平らほ
 い本の。富のを子がす斉・ 民れう
 てのち ん言歌のなが唱卒 歌よき
 、政よ だ葉う徳い、を業 のを
 日治う もはもを、こ義式 一も
 記風ど の、の賛君の務に 例つ
 に土一 で何でえがよづお でて
 この年 あとなる代うけい ある
 うお前 る示くたはなるて する
 記よ（ か唆てめ国時と、

いとすす二
 °欲るるに余
 余す。°、輩
 輩る情第武は
 は。°の三士第
 いそ人に(一
 かの、、剣に
 な他義クを、
 るののり抜人
 意者人スかた
 味と、ちざら
 にな愛ヤるん
 おらのン)と
 いん人たた欲
 てととららす
 も欲なんんる
 一しらとと。°
 特なん欲欲第

う一會りこみ何をいんのすのす一そ録文であと一ん
 に何改まのか者信。°と志。°小内。°ジのさ館紹そりて平。°内
 も者良し一えにぜた欲望こ文村を中れ版介こまも民へ村
 言で家よ何でもんだしをこに五、かて一しでせ定の平と
 つもでう者一なと神な述で一三私らい信て定ん義定民い内
 てなも。°で何ら欲のいべ彼目歳な内る仰き義。°と義。°う村
 いい、一も者んすつ。°たは的のり村四著たを言一に人描
 まも聖慈なでとるかま後來のとにの篇作文すえ多つはく
 すの書善いも欲一わた、し進き再描の全章るるとい殆へ
 °。一学家者なしとし何一方歩(一構き論集によよ題てど平民
 を者で一いな言た事余を一一成出文一、りうすもの
 、でもこ一いつまをは回⁶⁹九ししその始もなるそ場
 内も、そと一ていも今顧と一てたの一め、包小う合
 村な教が言をいしなはしい三みへ他平にむ括文で定のイ
 はい育へえ少まそさ何、う(た平を民申しの的はあ義メ
 まも家平ば々すのん者折の大い民併一しろなありま致
 たので民、私。°ひとに々が正と、せのま、もりますし
 次一も、ま流こと欲ものあ二存のま項しこのますしジ
 の⁶⁹、でさにのりしな自り(じイしにたれです。°ま
 よ、社あに読一子なら分ま(年)まメて、収教まはが、せ

平たちる一護民ま余
 民るも者人しでたの余
 はののでら、は民言は
 一価)あし自な衆う今
 靈値とるき身いと平な
 魂をか。°人そ。°称民お
 の有い地一の勞せは平
 人すう位で人働らも民
 一るもとあた階るちの
 で者のかるら級るろ友
 あでを爵。°んでもんで
 るあ全位人とはの俗あ
 °。然とと欲なで人る
 内。°離かしすいはで。°
 に余れ所てる。°なはさ
 足のて有価平余いなれ
 り言、(値民が。°いど
 てう人もあは、
 貧。°も

⁷⁰.は完もう勳る平民偉ゆになそ肉ほ人くび神る別
 か全つは章裸民と大えおもうで人か類呼たは。°余の
 かにてずも体のなににいのしなのにのぼも預教輩人
 る達あは、の本る達彼てはてい本な一れう言職の一
 完しがな学わ体。°すは認な靈。°体い人んた者で理と
 全たない位れで肉れ神むいに彼は。°、こ。°エは想な
 なるわ。°も、あ体ばがれは階は言こと余ぜんはら
 る者れキ、こるよ達彼ばず級特うれを輩キい貴ん
 平でしり教の。°りすに、でと別まに欲もエ。°族と
 民あ罪ス職一神離るつ純あかにでますマル平で欲
 とる人トもわのれほい粹る称靈もさるたを信はし
 な。°、の付れ前たどてな。°号的なり。°神一徒なな
 りそこ十着一にる、定る人と実くて一に人でいい
 たうれ字しに独靈単め平をか在靈貴人ものあ。°
 くしが架て、り、純た民そ言物でいの人子る平
 欲て平のお位立こなまでのうであ称子に一。°民
 う余民血り階つれるいあ本よあつ号一もと、で
 °。輩のをよも、たが平する。°

らと なの 的 知んよ 霊神あ ス新 へりく
 ねい わい い ま 信 るで つ 魂のり ．知こ 平、、一
 ばう れ主 °た 仰 者贖ての前、 individual in the singular number デ友の民 一、何
 なに 知をヨはは とい言人に今 ツしう ならので
 ら至る 発ブ 国由 あ主え、独 読 ソ、へ でき、な
 ぬっ 見は 家来 りをば であり み 32. 究民り、あ者
 °た しひ 的個 ま発、あ 立ま ン研平あ人 であ
 わ °、と ま 人 す見 かり っし の、ま た た 言誌のすあ、と
 れた りた 的 °し の 又 内、ヨす る内 °り、は
 られ 苦は の たブ °裸 村” 葉読 内 °り、は
 はも し人 も だのこ 体の、一よ れの文 単借には す類特
 人ヨ み類 の 一うを わ章 数り 紹、 °の 別
 類ブ て 的 であ 人うを わ章 数り 紹、 °の 別
 との ひの あ でのに 信れ のの れ 介 当 そ一の
 共ご と も る キ、仰、中 個 ば し 時 れ人 人
 にく あ 社 リ独 ので に 人、た 内 が、一
 りあ が は 交 スり 消あ あ、” ト 村 真で であ
 ト 苦息 りる 72. 息マ が のあな

71. そかの のの 以は 要勲 裸外
 のる 者特 深外 すな 章々に
 一人が 権きに べきの の求
 人ら 真に 所何 て者 金霊 ぬめ
 との 個も なら 平で 箔魂 ざ
 な友の あ神 の民 あ、に 有者
 らた 平ず に名 である しで
 んら 民か 接誉 あ °ん しで
 とんで らす をる ゆば てあ
 欲と あん るも °え く、る
 す 欲と のの 求 に、こ °
 るし °欲 特め 偉を れ真
 も、そ せ権 ざ人 人も を個
 のま し ぎ以 るた とつ 飾の
 でた てる 外者 るい てる 価
 あ自 余者 に、の うす に値
 るら は、何 霊名 偉る 爵を
 °も か そら 魂 誉人 の位、 赤

栄足 よちも 言 75. や ま何
 こと すう じ名 者で ヨ聖 の 競き さ 政者 も すもこ
 こする なく 誉 であ ハ書 世争 を ず 府の の 平 °のう
 なるの 一 桑も もり ネに とお、 の 庇に 民 にし
 内も み 真を 特 預、 のよ 処自 お位 威保 もと もて
 村の な の 裁 権言 テよ っ せ己 わ階 力に たは 頼へ
 が、ら 平 培も 者コ うて んの ん、を よよ 実 ら平
 一 77. ず 民す 持の アに 言 と力 と 勲 利り らに な民
 ルで、 は する 弟の 一え す量 は 章用 て ぎ 神 い、
 カあ 平、者 な子 牧た ば るの なを し身 ると 自と
 伝り 民平、い 以 者だ、 のり ず っ 富立 の力 独 神
 一また 民 76.、も アの イ 称た、 てを て 称と 立と
 をする ので 一な モ人 エ 号 けた そ 作ん 号の の自
 講 °を 位あ 家い ス、ス でを だの らと であ ほ
 解 も 置り 畜、の 一の あも 公身 んは あか
 し つを まを 何よ 普弟 るつ 平の となる に
 て、 無っ °い 肩に のペ °て な 卑は さ °は
 イ 上て そ、書 一人 テ 74. こる しな ず、 強何
 エ の 満の い き 預、ロ

ぬう みらは 謬す 家に トス
 °者て は 信見 ると てを ト
 73. は、ヨ 仰よ °共 神知 を
 生つ づの りこ にを る知
 くの 浅 出れ、 知の る
 一に がい 発大 世ら での
 と、とも すい 界ん あで
 いわ くの るな 万と るは
 いれ、 が がる 国せ °な
 得知 ひ多 た 過と ず今 い
 るると いめ 誤共、の °
 に、りの に 社人 一
 至わ みで 今あ 神会 は人
 られ ずあ 日る をと とに
 ねを かる の °知 共か て
 ばあ ら °信 かん、一 里
 なが 苦わ 者か ん、一 里
 らなし れに ると 国人 ス

リを彼被銀しははきにるる従人らふるて適え福 し問たる
 ス維の傭をた決りも来。人事々るけ人問すど音中したよ被人要
 ト持選労もまし同のたゆがしでるる々題るもも堅かもり傭々す
 教せ定働つわてじはりえ最独はに人でとか、とのしう、労でる
 のるに者てな学こたたにも立なあ々あし。なよいてたキ働あに
 実入をよい士とれまも福のいらでる、いかりずこのり者つ彼
 行るもうで、をぞいし音生。ぎは。しわん万このでスにたら
 的も選やあ神なとて今の業手れな頭かくず人に事あトあ。は
 一方のびくろ学し選、日性にをばい脳も常くにあ実るはら聖独
 向面はた日う生たび彼キ質いも衣。を独に特対るは。まず書立
 きの必ま々。、もたがりにもたがりにそつ食まも立人にすか福
 人ずわのさ哲うも福ス合してすたつの生いるを音 そ独者生
 がでやな生り学でう音ト体む日る他て地のかも示の の立に計
 かあ独い活と者あなをわすの々あ人思位事なのす向 弟のあを
 しる立でをてらろらゆれる人のたに索を実るなのか 子漁ら維
 こうのあ支まにうばだらの、労わ使研確を人りでい を業ず持
 に。地ろうた注。、ぬのでか働ざ傭究保も々とあ行 選者、し
 あキ位う。賃目彼やべ間あかにるせにせつにいる。 定のまた

つ内と選あス
 で村い定つが
 はのうーた選
 な描語⁷⁸.かば
 いくはとをれ
 かへ出題語た
 と平てすつ弟
 思民きるた子
 い、ま文一た
 まのせ章節ち
 す具んでがが
 の体がすあど
 的、。りの
 、なあこまよ
 ごイるこすう
 紹メいに。な
 介しはへ一人
 しジこ平弟た
 まのれ民子ち
 す。一が、の

他ンンズンにンンンなンン苦ン
 人トトト。トセトトトさトトトゼ
 にルルルルルルルルルルルルル
 なママママ。ママママ。マママ
 さンンンン。ンンン。ンン。ン
 しはははははははははははマ
 め、、、、、、、、、、ン
 ず自自殺 人 人 人 友 人 人 人の
 。己己生 の のと人 のに をな
⁷⁹.のをを 自 深 利 の 劣 悪 そ さ
 な 広 好 由 切 を 秘 情 意 の ぎ
 し 告 ま と を 争 密 に を 弱 る
 得 せ ず 。 平 和 を 妨 げ ろ ず。
 こ。 を 妨 げ ろ ず。
 と を

後紹 いへのルいるが
 程介因ま平資マは文、こ るもヨら
 申しにす民質ンこ章しれ。よハ
 して、。、をかれだかに くネし
 あお内 の加つにとしは 福らて
 げき村 イえデ内私、い 音をこ
 ままの メるモ村に内ろ をもこ
 すすゼ ーなクがは村い 受つに
 。。ン ジらラ神思とろ くてあ
 デト がばッ田わい異 る代る
 モル 形、ト乃れう論 に表の
 クマ 成こ「武ま人も 適せで
 ラン さことをすを あ しらあ
 ッ理 れにし呼。よる てれる
 ト解 るおたんそくか いし。
 にの だお、でし表と る人ペ
 つ一 ろよそ「てわ思 の々テ
 いつ うそのぜ、しい だがロ、
 てを とのニンあてま あ最、
 はご 思 つトるいす

ン内凡もな営すわ よ まはにつのは 大 的うい識だでは⁸² 一らまあ既勞
・村々のしむ。しそうそせな万る美勸平平 一でな力とけは手と平勞すりに働こ
イはのをで。いれなれんり民事代め民民神新時ネ学でなかも民働。見者こ
ン晩理愛あこ平 一はもで 一ま、の子てのイは鮮代に歴手いら言 一歌⁸⁰。キまでで
テ年 一しるれ民普当のは⁸⁴。せ殊必あいたエ平でに魂のを。入つとで リしあ忘
りにに、一にと通然で最とんに要てまめス民あ、を獲使今るて勞なそスたるれ
ジ發よ普⁸⁵。ましののあ後書。下をのすににをる内奪得う日もお働くしトよとて
エ行つ通 一さて生こりにいそ民切手。尽倣愛こ村わにこののり者てて教ういは
ンいての普る神涯とま、てれを實紙晩くつすとのれ狂と世でまはは平はにうな
サた生も通のを 一なし 一いな友にに年すてるで勞て奔を相あす戦な民勞、こら
し活のの特信⁸⁵。がよ平まくと感、、べ自。し働しし教をつ。争らの働平とな
一ますを生権じをらう民すしすじ 一孫きら⁸³よ觀ま、え見て内をな歌の民でい
としる最涯まで送、か。てるま善ので真そうのつモなま、村好いは宗イあの
いたこ善 一た、る平。の 神心すき教あのれか何てノいす頭にむと当教エりは
う 一ととと幸普こ民 日 の掛。平育る平ゆ。といの、とかよ者主然でスマ、
英ザでしは福通とに 常 祝けイ民に 一民え 健る裏ひ、られに張のあはす 一
文・あ、、他ので最 と 福がエとつ⁸³。と私 全。打た教入ばあしこる勞。平
のジリ 一普に生あも は は無スしいとなど でこちす育る、ら、とと働内民
雜ヤま平通あ産りふ ど 降くとてて内りも 常ののらはも真ず⁸¹。な申者村 一
誌パス。のるをまさ の りて共育嫁村、も 識よな知頭の理 一 がしではは

だ何人はの険ばべたる よさくや声伝を伝 は凡よ
し事間、ごに、しは勞信りる、すと道も道手い々。神
。をな勞とし信。商働仰手る聞しとはつにをまのしを
もり働きて仰万人者のへこき。も口てまもし事か多
語。のは不を々、たみととし語にをすさつてをしく
りわみあ健説やまるの伝少者り虚もるるて、なて語
得れのら全くむたべ人えな、し空つ伝。す人せ平る
ざは人ざな人をはしたらしこ者へて道筆るはよ々な
る聖のるると得職。るる。れはこすにを伝彼。凡か
人書ごな、なざ工神なる最がこくるまも道をさ々れ
をととり今るる、をか伝もたれう伝さつは認らの。
忌信く。日な場ま信れ道善めが 一道るて筆むば事神
む仰、信のか合たず。なきにたにな。すをる平をを
こと同仰伝れにはる信り伝充め失り最るもに凡語多
とのじの道。あ水農仰。道 一に 一。も伝つ至のりく
はほくみ師世ら夫夫を はみむう真悪道てら中、感
なか片ののにぎた、持、 一な 一理しはすんに平ぜ
は、端人職危れるまで 手たしせはき口る。神々

読のじてしすの のに、
む一まおま。も の、
こ文すりせ長の の、
とで。まんく 一 THE LOVE OF COMMON THINGS、(普通
にす 一すがな⁸⁷。 THE BEST、
いが平の、りと 一) 愛す、
た、々で石まい 一) 86. と、
しこ凡是原すう 一) 86. 最、
まこ々非兵の二 一、
すでのお永でつ 一、
。は理読先、の最、
そ 一み生こ論も普
こ⁸⁸。いそれ説を通
かはたのはを
らそだほこ寄の
二うきかこせも
かいたのての
所うい訳ごおと
だ表とも紹り最
け題存出介ま善

の静れの美涯 をとら大大とい
と肅た方しを終励成んななこるこ
いなももい詩りまれがれれそとこ
うるの多詩ににすよたよよが思に
内勤でいをよ、の。め。、い内
村勉、とごつ平で偉に、平実ま村
ら、家思紹て凡す大、凡はすと
しを業い介イに。な何しな真。い
い喜にまいメしれのかれにそう
一んいすた、てよ価、。大ての
篇でそがしジ偉、値、。大健
で、し、ま化大⁸⁹。な何平な平健
すそむ、すしなきか凡こ々全
。の、桶。たると者価なと凡さ
心人職ことへ内と値るで々が
をの、れも平村自あがあによ
歌桶⁹⁰は言民はらるゆる生く
つ職とごう、私覚者え。き表
たの題存べのどるとに、るれ
も、さじき生も者成偉偉こて

一

二

三

四

わわ 世年月 わ わ 人 わた政そわ
れれい は は は を れ と れ に は な れ だ 治 の れ
は は 変去満作 は を は 来 わ い は 善 を ほ は
政家 わりちるた求人たが わき知かた
治に りてて だめのる桶 が桶らのだ
のあ ゆ、、家な、を桶をな事桶
ゆり くまま にいわ 買 を作いをを
えて もたた あ れ わ 売る。知作
を、、来か り に ん ら 事宗らる
も善 わたけ て つ と ん を 教 な こ
つき れるる、い て と 知 を い と
て桶 は 強 て、てる知 を
人を 変 わ き 知 わ 外 ら 知
と作 わ 善 ら が に 行 な る
争る ら き ん も 行 い
わ な 桶 こ と か

民民ととるり すい教もが まこきて小と立わそこ深
、、いか他使さ。る師に、そすともきさいちちののい内
のはう、のわて こだどここ。をのたかう所、人よ一村
同英よ国語な、とのもので 幾がと非こに平全うつ、
意語う民をくこをのよ内最 分内こ力と内民体なのある
語、なと考なのを少でう村後にりのにあすとを立に固い
と考葉、てた平申か意、と人より。いもちはなは
えCitizen が人み言民しら味平蛇 格つまそうっ現、世内
て"あ民ま葉、あげ語も、に 解明、がを物彼れこをの
いのりとすいてのつのな い確、すのをてかもよ
た訳まか、がうみ詮か思る たに平今る全切まらつう
よ語す、、がうみ詮か思る たに平今る全切まらつう
うで。常市、、た索を想こ だ刻民まに体れい接人な
で、こ民民こ私いか、はと け印性では像ばり近で人
す内のととれどとら私現を たさ、に私が、ましあは
。村うかかにも思、は代恐 かれと申は現そすてり自
最はち、、相もい考言のれ 存いうありれにす必す広
初、一庶公当うまえ葉私ま じるべげにるははず。く
の平市民民す余 でのどす

内村のへ平民の思想と現代
、独わわ
や、れいがな
すひは宗い
らとた教を
か、だ人を
り善人に
で立き強強
あち強(し)
るてき桶、
はを作い
なはりんと
だて安し
泰泰な

すせ田言の 解もと遠制おあをを
 がて国つ三日しつし慮国いる広一とす
 、使男てつ本たててし家て国辞切はな
 こつらよの語い生、とへ民苑持一わ
 れてのい語でとき自自い平、一た自ち
 にい民ではは思る由らう民公にな分、
 はま俗し殆、いこに国よ、民よいよ内
 一す学よど一まと独政うで、る人り村
 特が者う同平すで立になあとと間高に
 に。が。じ民があに参人るあ一といよ
 、一特も意、る、与間こり国い人れ
 国人別つ味とい。互す的とま政う間ば
 家民などで一か私いる権はすにこの一
 の一意も使常がはに自力、。参と権市
 支も味一わ民でこ市覚の天そ与に力民
 配ほ合常れ一しの民を庇皇こすなに一
 者ぼい民てとよよ的も保とでるりよ
 に同を一い一うう連つをか日地まるへ
 対様もはる庶かに帯国一天本位す保平
 しでた柳と民。理を民切皇にに。護民

なう襲る自有ひエあ民あで
 のにを。分すと口るとるあ平
 で何こ人よるはし。な。る民
 あをとほりこす一。一。る人こで
 る所ご位高とべ生内ま生とある
 。有と階いにてののにでのよる
 91.しく、人なを、賛心は真りこ
 て奪勲間る、歌、決のものと
 いわ章的のい一頭し価はは
 るれ、権だやが上て値る、
 かる称力。、あに分はか侯
 をま号に最すり神か、に静
 知で、よ悪べさ一らわ大や
 らはそるのてえ一なれき伯
 な、の保所以す口いわな爵
 いほ他護有上れンもれ名や
 もんので物をばグのが誉男
 のと因あは、所、フで平で爵

まうと
 す英こ
 。文ろ
 をで
 道引
 家き
 弘ま
 一し
 郎た
 と、
 "A PLAIN
 CITIZEN
 の訳
 で読
 ん4
 でき
 みい

きルれ主権るとするくも尊い値
 でやを主威者同る社し、重てを共
 はワ排義をがじ相会て国に、尊和
 なシ除で保いで応も栄民他そ重主
 いンすあとるあ、えのなれす義
 のトるるうとる敬何た間らはるの
 でンが。と、。意らたにな最精精
 あのよ無すこ人なかめ適いも神神
 る共い政るれ民しの形がの。貴あは
 。和。府のをのに形はのな共。でる、
 92.主し状は無間はのな共。純。個
 義か態、慈に安君い和。粹そ人
 はしは近悲自定主の主い粹そ人
 、夕仮視に由し的是は義かなのが
 そ口借眼迫をえ権、的かな形本自
 うムな害愛な威い感るの質己
 すウくなし好いにか情国自にの
 ベエこ君てすの対なな家己お価

いは支、中英、の彼、味と間へがにうて
 ま一え、に文がそがいに広、ちで被
 龜共と、はを、章へこあう微辞こです支
 井和し、挙、と平でる字妙苑れは。配
 俊主て英げ、し民もとにな、もこそ者
 介義あ、語まて、うの、一、れこを
 訳一、国し、を、一、こ、続れ由国がでい
 でへた、民た、。自度と治がで家最最う
 引のこへの。ら内でさあ、の、も、後一
 用精と共、内村の村すれり内統一にへ
 い神は和、citizen、の、思に。てま村治般一広
 た、明主、)平、想帰、いすの権に国辞
 しとら義、)民、つす、人、そう、下、い、
 まはか、の、(、民、つ、つ、が、一、そ、平、あ、れ、す、味
 が、か、す、思、民、の、思、と、と、つ、先、い、一、人、い、あ、
 、と、。想、民、の、思、と、と、つ、先、い、一、人、い、あ、
 う、れ、そ、と、想、い、も、た、に、う、民、と、民、ま、こ、る、
 の、と、の、う、に、頃、意、の、一、す、ん、よ

争へれまあへりあしの本はい民の武本そと
 がこたはの海では日し意のピはたり実へりよが語何そうへでを人へい
 まう制、交空す、本、し惨しすはまは日歴まう一にかこのしへの平う
 さ考約日戦軍。永のこ、禍プべへす正本史すか番はとでと思たデ中民こ
 にえな本権そそ久へこのこがルて国。文国のが。適な考内で想。モでへと
 内てののはのしにピ憲こ起へ民例へ憲形、へ当くえ村あな^{36.}ク唯ので
 村までへ、他てこし法にるがピへえで法成彼ピだててのりく言ラ一中す
 のいあピこのそれプを主こへしがばはへ者らしと、みへましいッ人核。
 言りりしれ戦のをル確権と政プ八へすにでこプ考英ま平すてかトへでこ
 うままプを力目放へ定がの府ル回前べおあそルえ語す民。民えへ平あの
 へすすル認は的棄がへ国民^{ビーブル}い行でてへこるま主はの、に主ば^{democrat}。自
 民、がなこ達る国・たによ為すまにのへす主へで^{people}残念たは内りす尊
 へこの権へをるへのですつこの再本が国ル、民へ英こへで訳
 対へにへ保た第発するすつこの再本の、民へ英こへで訳
 応ピ対同持め九動。こるて日す本ル、民へ英こへで訳
 すしし二しに条たをとびの、民へ英こへで訳
 もル与へい。へ項戦こ宣を戦こへで訳

もへいはばしと
 しのか必日てい
 れ概えず本いう
 な念れし国るこ
 いがばも憲へと
 。明、同法民に
 し確内じで衆な
 かに村で言へり
 しなにはうとま
 私つはなと、す
 はてまいここ。
 、いだかるんこ
 内た今ものにこ
 村と日しへちで
 のはのれピ私内
 へ言へましど村
 平えピせブルが批
 へいプ。へ例判
 のかる言とえを

るこはに平いきい少
 もが生反民とよ。数か
 実れま抗が同も真でく
 は利れすい時少個あし
 貴欲なるるにないのるて
 族にがい。まい平。平民
 で引らわそれ。民民は決
 あかのゆしにそ少は決
 るる貴るてはしなきし
 。る族平ま貴族の衆は決
^{71.}者で民た族の衆は決
 はあも貴の内が平民で
 、る、族をにも平族は
 は名の大み真個
 平民に多この
 たあ数れの

かそトなるりへの神内でへるくの
 られ内以し。、神本的村しはと違で
 、は村外得そ”の体実のよ日いうは
 かがにるれ^{soul}前には質へう本う点な
 くこのいはえ”独肉言民そでと、か
 るよと真に^多り体うへしはでへと
 べう繰のこで立よもはてへすピ思
 きにり平そあつりのそそ民。しう
 へへ返民、りた離なのの衆そプの
 平平して内、る裸たで民連に意へす
 へへ調るは霊体るす衆で当味とが
 でをすイ人魂の霊。へ申たでは、
 あ描るエをのわへすのしるは集た
 りきのスへ人れまな個まとへ合だ
 すすすキ民^{71.70.}でち人なうし念つ
 と。リへであ平のらべプで大
 き、スにあり、民精ば、きルあき

【注私のお話ペしたことの中心を

で私をと「話」にど いや白もて来「服仲うな日は⁹²人い「思
 ごあどさす平のの少もそ責そな「はま民し間しり本一やがまプ想
 静ろもやるル民趣思しにの任せ事人「し衆てうてま人切「自すルに
 聴うにかこ「旨想くいよがだ実類もよ「真ち狭せに無「己「は
 有と残にとをとででおまう課けだのはうののは隘ん最用自の既た「
 難私しは「実「あは話最なさのと生やか連「仲ながもと分価にらこ
 うはた見こ体ピりなしも「れ大思存世「帯ピ良国「欠すよ値見しの
 ご考重るれ化「まいて必ピてきいも界そを「く家こけるりをてめ「
 ざえ大こがしプすかま要「いなま有のし生プ「主のて自高尊まるピ
 いてなと未てル「いとプる拡すり平てみル外義よい由い重い精「
 那「まお課がだ真「「りさルのが「得和そ出「のやうるの人すり神プ
 覇九しり題な「のをこまれ「でり「なものすに者「なも精間るまがル
 市八たまでかピ「つれしるにはとピい「民となに對精の神的共し横「
 ゆ九「すあ「つ「平ながたもなな「「と地衆いりは内神と⁹¹権和た溢を
 う年「りたプ民ぐき内のるいそプい球的う「無・な言「力主よしし
 な六「内ル「こよ村こたでれルう環連こ地関対くわこに義うてて
 莊月か村「のとこのそめしに「こ境帯と球心外しなれよのない真
 に十つ鑑の集「の「「によ伴にとのなな規「倫てけはる精「るの
 於一仕三地ま「私平こ「ううはは保くど模を理「れ今保神「と「
 て日事が平りピの民こ私か。重今明全し出の克「どばの護「個思ピ

（所載）
 大「
 阪九か
 天八ら
 下九し
 茶年だ
 屋一ね
 読〇「
 書月一
 会九
 八
 九
 年
 秋
 五
 二
 号

第示解集しう持
 二し・「たかた
 卷ま信で「とれ
 241す仰「使かて
 ペ「著注用と出
 「従作・し思典
 ジっ・信たいが
 でて日・全「知
 あ信記日集煩り
 る二書・はをた
 こ「簡英教いい
 と241・は文とと
 をは英そ館わ思
 示信文れ版ずわ
 し仰著ぞ「にれ
 ま著作れ内注る
 す作全「村を方
 「全集聖鑑付も
 集「書三けあ
 のを注全まる

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
信	信	日	信	信	信	信	信	信	信	信	信	日	日	信	日	信	信	信	信	信	信	信	信	信	信	日	信	英	信	信	英	信	信	信	信	11 - 241
19 - 149	23 - 193	2 - 100	19 - 168, 22 - 55	8 - 31	23 - 196	6 - 208, 23196	23 - 111	10 - 12, 23 - 193	8 - 31, 10 - 12	18 - 204, 23 - 193, 196	21 - 195	3 - 199	4 - 380	23 - 196	4 - 187	23 - 193	5 - 114	10 - 12	19 - 42	8 - 204, 21 - 195	23 - 193	12 - 242, 23 - 196	12 - 242, 23 - 196	8 - 31	5 - 38	4 - 380	10 - 12	5 - 94	24 - 111	24 - 100, 101	6 - 194	15 - 214	7 - 106, 8 - 30, 31, 219			

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36			
信	信	信	日	信	信	信	信	『朝報』	信	信	1899年	信	信	信	信	信	日	信	信	日	日	日	信	信	信	信	信	日	信	信	信	信	信	信	信	信	23 - 151
18 - 204	19 - 104	23 - 194	4 - 290	22 - 314	21 - 198	21 - 200	7 - 219	『朝報』存在の第一期」信 21 - 320	2 - 210、274	5 - 200	5月刊 信 5 - 179 ~ 229	15 - 236	23 - 286	21 - 43	16 - 157	19 - 58	3 - 206	11 - 241	7 - 106	3 - 299	1 - 144	4 - 368	8 - 30	19 - 211	21 - 276	15 - 132	2 - 175	12 - 242	21 - 276	10 - 245	10 - 141	10 - 16	7 - 48				

『書店、同右』	『内村鑑三英文論說翻訳篇下』	信	信	信	英	英	信	日	信	信	信	信	信	注	信	ア	使	信	注	信	信
1985)	1984)	22 -	22 -	16 -	4 -	4 -	8 -	8 -	23 -	21 -	22 -	10 -	8 -	9 -	23 -	モ	徒	23 -	4 -	19 -	23 -
(1984)	(1984)	356	113	149	122	42	63	222	193	284	315	16,	114	88	195	ス	行	194	222	169	196
70	70											15 -			7		4				
ページ	ページ											132			14		13				